日刊 動労千葉
82・6・25
No. 1079
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四三（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

第4回軟式野球大会 津田沼支部優勝

準優勝＝成田支部
第3位＝木更津、佐倉両支部

第四回軟式野球大会、準決勝・決勝戦は、六月二十三日、千葉市公園球場において、木更津支部・津田沼支部・佐倉支部の四強支部で闘われた。〈準決勝〉木更津支部対津田沼支部は、木更津支部善戦むなしく惜敗。佐倉と成田支部は、投手戦で成田。〈決勝戦〉津田沼支部対成田支部は、手に汗にぎる熱戦の末津田沼支部が堂々、優勝に輝やいた。

〈準決勝第一試合〉
木更津支部対津田沼支部

	木更津	津田沼
	1	0
	0	1
	0	0
	0	0
	0	0
	0	0
促進ルール	1	2×
	1	3×

木更津支部は、野球部を結成して間もないが、着々と力をつけ、今大会では強豪をねじふせてきた非常によくまとまったチームである。対する津田沼支部は、毎回優勝候補にあげられているだけに、攻、守とも安定したすきのない、特に上・下位打線のどこからでも打てるチームである。

試合は、木更津支部の先攻で始まる。二番山中が三塁線を破る痛烈なヒット、つづいて三番外山のライト前ヒットで、ランナー一・三塁とチャンス到来、すかさず一塁ランナーがスタートをきるや、虚をついて三塁ランナーホームを突きダブルスチールに成功して先取点をあげる。

しかし、津田沼支部も黙ってはいない。二回の裏一死後、六番三振が右中間を抜く三塁打、七番庄司の二塁ゴロであっさり同点とした。

その後は、津田沼の小倉、木更津の嶋田両投手の好投で一対一のまま促進ルールにもつれ込み、促進一回の表木更津支部は佐野の犠飛で一点、津田沼支部は鎌田のライトオーバーのサヨナラヒットで二点をあげ勝負が決った。

〈準決勝第二試合〉
佐倉支部対成田支部

	成田	佐倉
	0	0
	0	0
	1	0
	0	0
	0	0
	0	0
	×	0
	1×	0

登竜のごとく準決勝に進出した佐倉支部は小林投手を軸に守りの堅いチーム。一方、かって全国大会まで出場した伊藤投手とファイトマン境補手を中心にチームワーク抜群の成田支部との対戦は、好ゲームが期待された。二回まで双方得点なく、三回の裏、小林投手疲れたか、成田支部、一番林、右中間へ二塁打、二番神崎、バント成功で一、三塁、その後三塁ランナー、サインを間違えたか狭撃に倒れ、おしいランナーを失った。しかし、三番の境、カウント2・2から内野安代でランナー生還して貴重な一点をあげた。佐倉支部は、一ヒットに押えられたまま最終回を迎え必死の追撃に転ずる。四番大竹、ライトエラーで2進、五番高橋が四球で、一打同点か逆点のチャンスとなったが、ピッチャー交代して境となる。結局三人押えられて、成田決勝へ進出。

〈決勝戦〉
津田沼支部　対　成田支部

	成田	津田沼
	1	1
	1	0
	0	0
	0	3
	2	0
	0	0
	0	
	4	5

実力伯仲、どちらが勝ってもおかしくない、決勝戦にふさわしい好カードとなった。

一回の表、津田沼支部は一番関のライト越えの二塁打、中継悪く三塁へ進む。早くも荒れもようとなった。そして暴投で一点先行。その裏、成田支部は、四球をきっかけに、三番足立の中前安打で同点とした。二回の表、津田沼支部は、関川・関と連続二塁打で一点をあげれば、成田支部も一点を返して同点で五回を迎える。津田沼支部打順よく、三番の鎌田二塁打、続いて石川の右越えの三塁打と原のうまいバントで二点。さらにフィルダーチョイスで合計三点と大きく水をあける。しかし、五回の裏、一エラー、一死球、2四球と乱れをついて一点を返し、さらに満塁で五番川嶋の内野安打で一点差としたが三振投手よくふんばってこの回の攻防が試合を決め、久々に津田沼に優勝の栄冠が輝やいた。

最高殊勲選手には、優勝した津田沼支部チームの主将、石川義雄選手が選ばれた。

最高殊勲選手	石川義雄（津田沼）
打撃賞	関　道利（〃）
敢闘賞	小倉邦夫（〃）
敢闘賞	伊藤　彰（成田）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！